

浦添運動公園内に散布されたグリホサート（ラウンドアップマックスロード）  
の検査試験成績書に対するコメント

- 1) 採取された土壌（①遊具周辺、②民家側法面、③トイレ下側、④階段横、⑤球場裏、⑦球場横水路低質）について、グリホサートの溶出量は分析機器の定量下限（分析値として定量し得る最低量）の0.02mg/Lを下回った。結果の分析値は理論的に計算された値であり、したがって、溶出量は極微量である。含有量の報告値も分析機器の定量下限値以下の10mg/kg未満となり、含有量は測定不能（限りなく0に近い）と判断される。
- 2) 採取された水（⑥球場横水路、⑧レストハウス横）について、グリホサート含有量の報告値は、分析機器の定量下限値0.02mg/L未満の極微量であり、厚生労働省が定めた農薬類の水質管理目標設定項目15のグリホサート目標値である2mg/Lを大きく下回った。
- 3) グリホサートは除草剤として雑草地に散布されるものであり、有害物質の設定は無く用法および用量等を守って施用すれば危険性はほとんど無いと考えられる。
- 4) 例えばであるが、人が毎日経口摂取しても健康被害の出ない量は、体重50kgだと、1日摂取許容量（ADI）から50mg（約42.4ml）と算出される（グリホサート情報3を参照）。
- 5) 土壌中での生分解期間を考慮すると約1か月後には数十万分の一以下になると推測される（グリホサート情報4を参照）。

考察：上記1)～5)の結果について判断できることは、同公園内の土壌及び水質における人体やペット等に対する危険性はなく、安全であると結論できる。

琉球大学 農学部 亜熱帯フィールド科学教育研究センター  
准教授 赤嶺 光

※参考

【グリホサート情報】

1. 急性毒性（LD50）：> 2,000mg/kg（ラット）
2. 急性参照用量（ARfD）：設定する必要がない（食品衛生委員会）  
※ARfD：一時的に経口摂取しても健康に悪影響が出ない量
3. 1日摂取許容量（ADI）：1mg/kg体重/日（食品安全委員会）  
※ADI：毎日一生食べ続けても健康に悪影響が出ない量
4. 50%生分解（半減期）：土壌中（好気性条件）で2～3日  
※環境保健クライテリア（EHC）より